

ダンボール原紙～片段～両複面ダンボール 使用箇所無限

【特徴】

1. キャピター方式で複数のキャピターを電子swにて切り替えることによりスキャンニングフレームなしで、シンプルな構造。
2. マイクロ波による水量測定方式のため、内部の水分まで包含して測定。
3. 構造上、取り付け簡単、安価



現在、段ボールの品質のうち、シート反り、糊接着状態については、現場作業員の目視による判定に、頼っている。
特にシート反りに関しては、カッター出口あるいはスタッカーで積みこんだ状態を見てからシャワーをかけたりしながら矯正する、または最初から飽和状態にスチームをかけ、飽和状態に熱をかけ乾燥させる、という反り対策を実施しているのが、最新の状況である。

しかし、この方法では、スタッカー積み取り後の時間経過にて、積んだときにはなかった反りが再発生するという現象が発生する。
出荷段階では問題のないシートが、客先から反り不良として返品されるなどである。

製造過程で無理に一律に飽和状態にて製造するのではなく、原紙の状況、機械のそのときの状況に見合った、シャワーなりスチームなりを与えることが反り対策に有効であると考ええる。

しかしながら、現在の段ボール製造過程では、それら品質の測定手段がせいぜい温度計によるものでしかなかった。

今回、原紙工場で使用しているものと同程度の水分計を、段ボール用として開発し水分計+温度計にて、原紙幅方向、流れ方向を、リアルタイムにて測定し、反り、接着管理に有効なシステムを提案する。